

肝属川水系河川整備基本方針(案)の概要

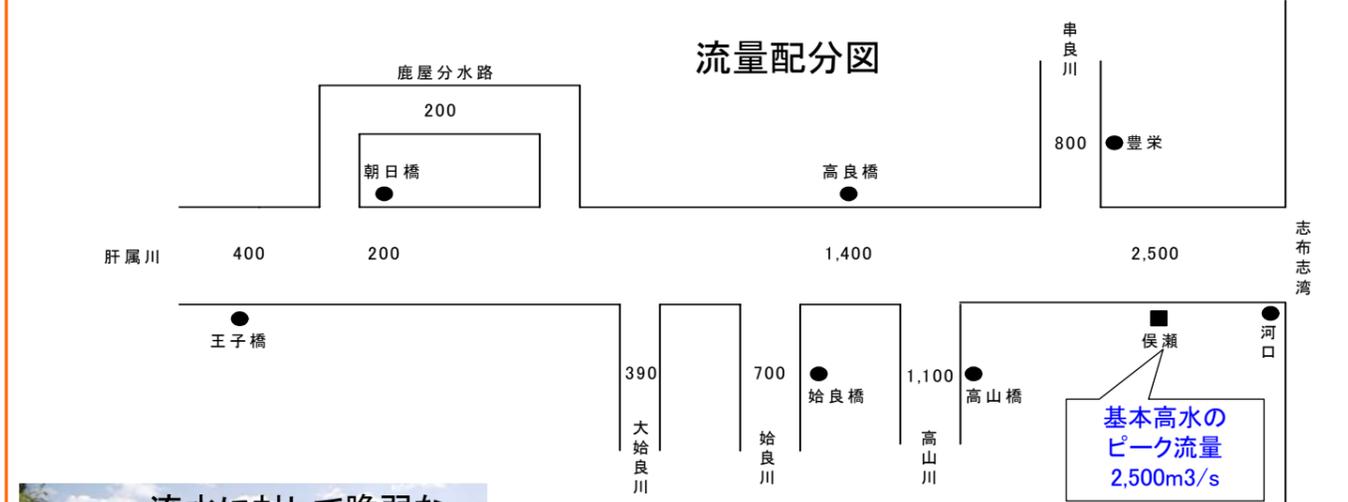
流域及び河川の概要

- 降水量は全国平均の約1.6倍の2,800mm。
- 流水による侵食に極めて弱いシラスが流域の約7割を覆っており、広大な台地を形成。
- 中下流は黒豚・黒牛を中心とした畜産が盛ん。



災害の発生防止又は軽減

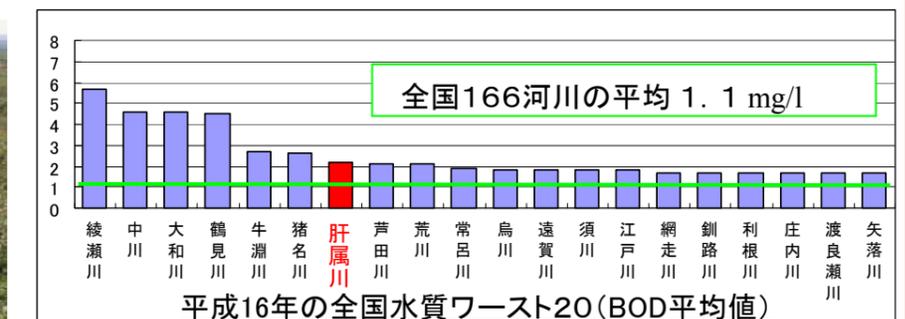
- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量確率(1/100相当)による検証、既往洪水からの検証により、基本方針においても既定計画と同様に基本高水ピーク流量2,500m³/s(俣瀬)とする。



- 河道掘削や固定堰の改築により流下能力を確保
- 築堤材料として使用されているシラスの特徴を踏まえ、堤防の詳細点検を進めるとともに、効果的な堤防強化対策を検討

河川環境の整備と保全

- 直線的で単調な河川空間となっている区間については、治水上影響の無い範囲で、多様な自然環境を創出。
- 全国一級河川のなかでもワースト上位である水質については、水質改善目標及び行動計画に基づき、関係機関や地域住民と役割分担を行いながら、計画的な水質改善に努める。



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 動植物の生息地または生育地の状況や流水の清潔の保持など、9項目の検討により、維持流量を設定し、水利流量、流入量を含めて正常流量を朝日橋地点において、かんがい期0.35m³/s、非かんがい期0.46m³/sに設定。